

# alic

エーリック

2022

6

月号

第66号

- 寄稿
- 02 酪農教育ファーム活動の歴史と変遷  
～これからの酪農業を支えるために～  
一般社団法人中央酪農会議
- ご案内
- 04 よくあるお問い合わせと回答 ～畜産編～
- 05 alicと学ぶ！ 砂糖に関する動画を公開しました
- 06 最新の情報誌から
- 07 国産やさいマッチングサイト“ベジマチ”会員募集中！
- まめ知識
- 08 国産？輸入？ しいたけのふるさとを知る「どんぐりマーク」



## ○酪農教育ファーム活動とは

酪農教育ファーム活動は「酪農を通して食やしごと、いのちの学びを支援する」ことを目的に、「認証」を受けた酪農家などが、牧場や学校などで行う教育活動です。

「消費者から愛される酪農を目指す」という酪農家の思いと、「酪農（牧場）が持つ教育力や癒し」の力を教育現場に活用して、命や食

について学ばせたい」という教育

関係者の思いが合致し、1998年7月、本会議が中心となって「酪農教育ファーム推進委員会」を設立しました。これが組織的な酪農教育ファーム活動の始まりです。

その後、活動の目的や認証の条件、規則などを定めた「酪農教育ファーム認証制度」を創設し、「教育を行うのに適切な牧場」として第一期の酪農教育ファーム認証牧場116牧場が誕生しました。

認証を受けて活動を行う「場（牧

場など）」を「酪農教育ファーム認証牧場（以下「認証牧場」という）」、「認証を受けて活動を行う「人」を「酪農教育ファームファシリテーター（以下「ファシリテーター」という）」といいます。2022年3月末現在、全国で261の認証牧場と540人のファシリテーターが活動しています。

## ○酪農家と教室をつなぐ

## オンライン授業

認証牧場における酪農体験者数は、2019年度は全国で約30万人でしたが、新型コロナウイルス感染症が発生した2020年度には約6万人と激減してしまいました。酪農教育ファーム活動ではこれまで、現地に足を運び身体を動かして学ぶ「体験学習」を重視してきました。新型コロナウイルス感染症拡大により活動が制限される中、新たな取り組みとして「WEB

を活用した酪農教育ファーム活動」をスタートしました。

ここで1つの事例をご紹介します。

2021年2月、埼玉県・吉田牧場の吉田恭寛さんと、東京都墨田区立第三寺島小学校（福井みどり校長）の3年生が、オンラインで授業を行いました。

吉田さんはZOOMにつないだスマートフォンで牧場内を映しながら案内し、子どもたちは教室のスクリーンの映像を見ながら授業が進みます。先生が間に入って声掛けをしながら、吉田さんと子どもたちがやりとりします。吉田さんからは子どもたちの反応がわかりにくい状況だったので、子どもたちへの問いかけを増やして反応を見たり、質問をたくさん受けたりするようにしたそうです。最後に、吉田さんから「この中に男の子の牛はどれくらいいると思



乳しぼりの様子を見つめる児童



吉田牧場の吉田さん(中央画面内)と墨田区立第三寺島小学校(福井みどり校長(左))をつないで



飼料のにおいを嗅ぐ児童

う？」と質問したところ、大半は「半分」と答えました。「この中に男の子の牛は1頭もいません」というと、この日一番の驚きの声が上がりました。

授業後、福井校長先生は「オンラインには、普段入れない場所を見ることのできる、見せたいことを焦点化できるなどのメリットがあります。一方で、においや牛の温かさなどは本物から学ぶしかありません」、吉田さんは「オンラインのメリットを生かし、子どもたちや仲間たちとどんどんつながっていききたい」と語りました。

## 児童がまとめたワークシートから

『命をいただくということ』

✕メモ 酪農家さんのお話を聞いて、気づいたことや初めて知ったことを書こう

- ・いろいろな「モーモー」でかんじょうをつたえる
- ・耳のしるし まいごにならない
- ・べろを出してきれいにえさを食べる
- ・びょうきで死ぬうしもいる
- ・牛は毎日牛乳をだす。休みなし
- ・牛乳をすてるのはざんねん

## ○教育で酪農の未来を支える

酪農教育ファーム活動は、子どもたちや消費者にとっては自らの学びの場、酪農家にとっては酪農を理解していただく場として、非常に重要な役割を担ってきました。コロナ禍で活動そのものが制限され、ファシリテーターが離れ



授業の最後、吉田さんに手を振る児童

ていつてしまいうのを、看過するわけにはいきません。子どもたちが酪農への理解を深めることは、日本の酪農の未来を支えることにはなりません。酪農教育ファーム活動は、酪農家が消費者に直接思いを伝える絶好の機会であり、その重要度は今後より一層増すと考えられます。

コロナ禍で得た「オンライン」という新たな手法も活用しながら、

本会議においても引き続き、酪農・教育双方の関係者との連携を絶やさずに、酪農教育ファーム活動を推進していきます。

### 一般社団法人中央酪農会議 概要

1962年8月に設立された、日本における酪農分野の中央団体。地方会員（9つの指定生乳生産者団体）と中央会員（6つの全国団体）からの「会費」と、指定団体に生乳を出荷する酪農家からの「抛出金」を基に運営。

日本酪農の安定と発展に貢献し、国民の健康の増進に寄与することを目的に、

- ①酪農家が搾った「生乳」の需給安定化のための取り組み
- ②「生乳」の安全・安心に関する取り組み
- ③日本酪農や国産牛乳乳製品の重要性を伝えて理解者・応援団を増やす取り組み—などを行う。

酪農教育ファームについて詳しくはこちら

<https://www.dairy.co.jp/edf/index.html>

体験の内容やお申し込みは、直接牧場へお問い合わせください。

# よくあるお問い合わせと回答 ～畜産編～

ご案内

alicでは、業務などに関するご意見・ご質問について、受付窓口を開設しています。  
詳しくは、ホームページのお問い合わせをご覧ください。  
今回は、畜産に関連するよくあるご質問と回答について、ご紹介します。



## よくあるご質問 ピックアップ！

Q. 畜産関係のレポートを調べたい

A. 「畜産の情報」検索では、畜種やテーマ、掲載期間、国・地域区分などを指定して、レポートを閲覧できます。



このほかにも、alicのホームページでは、業務に関する情報やレポートなど、さまざまなコンテンツを掲載しております。ぜひ、ご確認ください。

## alic と学ぶ！砂糖に関する動画を公開しました

独立行政法人農畜産業振興機構（alic）では、動画コンテンツを制作し YouTube により配信しています。

今回ご紹介する動画は、「[alic と学ぶ！知っていますか？お砂糖の歴史](#)」です。YouTube の [alic channel](#) で、ご覧いただけます。



（デジタルブック版では動画を再生できません）



ボンボニエールと金平糖

**動画を見ると分かります！ぜひご覧ください。**

- 砂糖のルーツはどこでしょう？
- 日本に砂糖が伝わったのはいつでしょう？
- 昔、砂糖は〇〇として使われていた？
- 皇室行事に欠かせない「ボンボニエール」とは？

ご存知ですか？



**YouTube の  
alic channel のご登録も  
ぜひお願いします。**



## 最新の情報誌から

alicでは、毎月、「畜産の情報」「野菜情報」「砂糖類・でん粉情報」を発行しています。情報誌では、需給動向の解説、海外の動向、国内の優良事例などをご紹介します。今号は、最新の情報誌から、注目記事をご紹介します。

### 「畜産の情報」 6月号（5/25 発行）

【海外情報】から

タイトル：コロナ禍におけるメキシコの豚肉需給動向

執筆者：調査情報部（現総務部総務課） 河村 侑紀

安価で細かな技術力を持つ労働力や、疾病リスクの低い地理的特徴などの強みを生かして成長し続けてきたメキシコの豚肉産業について取り上げました。同国は、コロナ禍で経済が大きく混乱したものの、現在は力強い立ち直りを見せています。成長し続ける同国の豚肉市場を紹介します。

### 「野菜情報」 6月号（5/25 発行）

【調査・報告】から

タイトル：生食用ばれいしょ生産者の第三者継承による新規就農の取り組みについて  
～北ひびき農協（士別市）生産者の事例～

執筆者：札幌事務所 石井 清栄

生産者の高齢化や後継者不足によりばれいしょ栽培農家戸数が減少している中、北ひびき農協（士別市）の中村光晶氏は、平成23年から同地で第三者継承により新規就農しました。令和元年度に北海道農業公社の新規就農優良農業経営者表彰で最優秀賞を受賞し、現在では地域の指導者的役割を果たす同氏の取り組みなどについて報告します。

### 「砂糖類・でん粉情報」 5月号（5/10 発行）

【話題】から

タイトル：“使い捨てから使い食べへ” 食べられる食器の展開

執筆者：元株式会社丸繁製菓 特別研究員 村瀬 博重

でん粉を原料とした器まで食べることができる食器の技術を応用し、「使い捨て」を「使い食べ」に変革する新しい可食カップを開発しました。開発の経緯と活用事例についてご紹介します。

ご紹介した記事のほか、需給情報などについては各誌 web サイトをご覧ください。

# 国産やさいマッチングサイト“ベジマチ” 会員募集中！

登録・利用無料！



**生産者 ※1**

**ベジマチ**  
国産やさいの生産者と  
実需者を結ぶマッチングサイト  
**VegeMach.jp**

**実需者 ※2**

4月27日現在 会員登録数298者(生産者206者、実需者92者)

## ベジマチについて

- ポイント 1**   
国産やさいの生産者と実需者を結ぶオンラインの商談サイトです。
- ポイント 2**   
利用者登録から商談成立まで、無料でご利用いただけます。
- ポイント 3**   
場所や時間の制限なく、いつでもどこでも商談いただけます。

## ベジマチでできること

 <p><b>生産者</b></p>	<b>購入希望者の検索</b> 全国の購入希望者を検索することができます。 	<b>欲しい野菜の検索</b> 野菜の種類や産地から、欲しい野菜を検索することができます。 	 <p><b>実需者</b></p>
	<b>掲示板を使った情報発信</b> 旬の商品情報などを発信することができます。 	<b>掲示板を使った情報発信</b> 商品に関する要望などを発信することができます。 	
	<b>メッセージ機能による個別商談</b> 購入希望者と直接やりとりすることができます。 	<b>メッセージ機能による個別商談</b> 生産者と直接やりとりすることができます。 	

会員登録募集中

右記の“ベジマチ”のURL又はQRコードからお申込みいただけます。 <https://www.vegemach.jp/>



※1 生産者とは、国産野菜の生産者や生産出荷団体です。 ※2 実需者とは、国産野菜を取り扱う事業者で、私的利用となる消費者は対象となりません。



お問い合わせ先：独立行政法人 農畜産業振興機構 野菜振興部 需給業務課 TEL：03-3583-9793 E-mail：vegemach@alic.go.jp

# まとめ 知識

## 国産？輸入？しいたけのふるさとを知る 「どんぐりマーク」

### 調査情報部

皆さんはしいたけを購入する際、原産地を確認しますか？

しいたけは、ほだ木（しいたけを栽培するときに種菌をつける原木）、または、菌床と呼ばれる種菌を植え付けた培地で栽培されています。実は、このしいたけの「畑」とも言えるほだ木や菌床が



菌床しいたけ発生の様子

製造された場所と、しいたけが収穫した場所は異なる場合があります。つまり、菌床栽培の場合「原産地」の項目には、収穫された場所から「〇〇県（産）」と表示されていても、海外から輸入された菌床が使われた可能性があったのです。特にここ数年、中国で製造された菌床を使用して日本国内で栽培したしいたけの流通量が急増し、「国産」として安価に出回ることによって、国内で「純国産しいたけ」を栽培する生産者の販売環境が圧迫されています。

そこで、全国食用きのこ種菌協会は2017年から、ほだ木や菌床の原料が国産であることを示す「どんぐりマーク（栽培原料原産地商標）」の表示に取り組んでいます。また、2022年3月には、消費者庁の「食品表示基準Q&A」が一部改正され、消費者に適切な

情報を提供するため、原木または菌床に種菌を植え付けた場所（植菌地）を原産地として表示することになりました（経過措置期間は同年9月末まで）。

しいたけの産地では、商品パッケージにどんぐりマークを取り入れて純国産をアピールし、輸入菌床由来のしいたけとの差別化を図ることで販売力強化を目指しています。



どんぐりマーク  
（全国食用きのこ種菌協会提供）

しいたけを購入する際は、純国産である「原産地〇〇県（産）」の表示と合わせて「どんぐりマーク」をぜひ確認してみてください。月刊「野菜情報」では、純国産にこだわり、肉厚で菌ごたえのある風味豊かなしいたけ栽培に取り組む産地を紹介しています。



純国産しいたけは肉厚で香りも豊かです。

# alic

エーリック

次号は2022年7月5日発行です。

## 掲載予定

- トップインタビュー「日本の農業を支える後継者の育成～農業高校のいま・これから～」
- REPORT「アメリカの砂糖菓子事情について」
- ご案内「画像貸出について」  
「よくあるお問い合わせと回答 ～砂糖編～」  
「alicと学ぶ！砂糖に関する動画を公開しました」  
「最新の情報誌から」

※タイトルなどを変更する可能性がありますので、ご了承ください。

alic (エーリック) 6月号 (No. 66)  
2022年6月6日発行

発行元 独立行政法人農畜産業振興機構  
(alic : エーリック)  
Agriculture & Livestock  
Industries Corporation  
〒106-8635  
東京都港区麻布台 2-2-1  
麻布台ビル  
電話 03-3583-8196 (広報消費者課)  
F A X 03-3582-3397  
U R L <https://www.alic.go.jp/>  
製本/印刷 山口北州印刷 (株)

※本誌掲載記事の転載をご希望の場合は上記窓口まで  
ご相談下さい。

※バックナンバーのご案内  
[https://www.alic.go.jp/koho/kikaku03\\_000299.html](https://www.alic.go.jp/koho/kikaku03_000299.html)

※本誌に掲載した論文などで、意見にわたる部分は、  
それぞれ筆者の個人的見解であることをお断りします。

※表紙写真提供：(一社)中央酪農会議

## 編集部から

今号では、酪農・教育双方の関係者をつなぐ酪農教育ファーム活動について、(一社)中央酪農会議にご寄稿いただきました。この活動は、子どもたちや消費者にとって生産現場に触れる新鮮な学びの場であり、酪農家が消費者に直接思いを伝える絶好の機会です。今後の酪農業を支えていくため、オンラインも活用した継続的な取り組みが期待されます。毎年6月は、【牛乳月間】です。この機会に、当機構の[ホームページ](#)などを通じて、牛乳や酪農への理解を深めていただければ幸いです。

ご案内でもご紹介しましたとおり、当機構ホームページでは、業務に関する情報やレポート、農畜産物の需給や価格などに関する統計などさまざまなコンテンツを掲載しています。ぜひご覧ください。

ALICでは、畜産、野菜、砂糖・でん粉に関する情報について、希望する方々に直接電子メールで情報提供するメールマガジンを発行しています。広報誌「alic」の発行についてもお知らせしています。配信をご希望の方は、[こちら](#)からぜひご登録ください！

## ご感想ご意見をお待ちしています！

今月の広報誌「alic」のご感想や今後取り上げてほしいテーマなど、ぜひ[こちら](#)からお聞かせください。

情報誌のメールマガジンに広告を掲載してみませんか？  
セミナーのご案内など貴社のPRに是非ご活用ください！



# メールマガジン 広告募集します

原則毎月10日(砂糖類・でん粉)  
と25日(畜産、野菜)の配信です。  
詳細はこちらをご覧ください。  
[https://www.alic.go.jp/koho/mng01\\_000275.html](https://www.alic.go.jp/koho/mng01_000275.html)

**alic**  
Agriculture & Livestock Industries Corporation  
独立行政法人 農畜産業振興機構



食から日本を考える。

**ニッポン  
フード  
シフト**